

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	電磁気学第一演習		
英文授業科目名	Exercises in Electromagnetism I		
開講年度	2006年度	開講年次	2年次
開講学期	3学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科		
担当教官名	柳澤 正久		
居室	総合研究棟1026		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p><b>【主題および達成目標】</b></p> <p>(a)主題： 基礎学問に対する正しい知識と応用力は、独創性ある研究、開発を支える重要な柱の一つである。そして、電磁気学は力学同様、理工学のあらゆる分野で基礎として身につけることを要求される学問である。この科目は、同学期に開講される電磁気学第一の講義に対応した演習中心の科目であり、静電気から定常電流までを扱う。</p> <p>(b)達成目標： 教科書に載っている程度の問題が解けるようになること。</p>
---

<p><b>【前もって履修しておくべき科目】</b></p> <p>微分積分学第一 微分積分学第二 力学第一</p>
--

<p><b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b></p> <p>線形代数学第一 線形代数学第一 線形代数学第二 解析学 基礎科学実験A 工学基礎演習第二</p>
---

<p><b>【教科書等】</b></p> <p>教科書(必携)：渡辺征夫、青柳晃、工科の物理3：電磁気学、培風館。</p>
---

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

1. 電磁気学第一の授業についての発表をしてもらう。
2. 基礎的な項目についての解説を行う。
3. 簡単な小テスト。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

#### (a)評価方法

成績評価 = (期末試験の点数 × 約 40%) + (出席or小テスト × 約 60%)

期末試験は基本事項の理解を問うものとする(講義に出席し自力で問題を解いていなければならない)。答案の書き方も評価対象とするので、論理的に明解な答案を書く努力をしておくこと。

#### (b)最低達成基準(成績可の最低線)

(1) 6割以上出席すること。かつ、  
以下に関する簡単な問題が解けること。

(2) ガウスの法則

(3) 電界と電位

(4) 静電容量

(c) 教科書の完全理解(暗記ではない。理解し応用できることが必要)が満点になるように期末試験の問題を作り、出席or小テストの内容と合わせて秀、優、良、可を付けます。

### 【オフィスアワー：授業相談】

オフィスアワー：火曜 5 限。

### 【学生へのメッセージ】

「習うより慣れる」。目と耳だけを使って勉強した気になってはいけません。手を使って問題を解くこと。質問があったら、適宜部屋に来て下さい。通信教育ではないのだからメール、電話での問い合わせには応じません。

【その他】

仕事などの都合でこの授業に出られない者は、

(1) C科昼間コースの授業に出られる場合は、授業担当者(上先生or來住先生)の許可を得た上でそれを受講すること。

(2) C科昼間コースの授業にも出られない場合は、毎回のレポートの提出をもって出席にかえます。

注1：提出期間(以下参照)以外の提出は欠席とみなします。

注2：原則として期末試験は受けること。

注3：全レポートの提出が済んでいない場合、期末テストの受験を認めません。

(a)代替レポートの内容：教科書の写本(ページ毎の体裁、図なども含めて、全く同じように教科書を手書きで写す。コピーやワープロは不可。ただし用紙サイズは違ってよい)。「問題」は解く必要はないが写すこと。

(b)提出方法：以下に示す提出期間に総研棟10階1026室(柳澤)ドア・ポストに入れる。

(c)教科書のページと提出期間

提出期間      ページ

4/12-4/25    iii-v, 1-4

4/26-5/02    5-10

5/03-5/09    11-17

5/10-5/23    18-23

5/24-5/30    24-29

5/31-6/06    30-36

6/07-6/13    37-43

6/14-6/20    44-50

6/21-6/27    51-57

6/28-7/04    58-64

7/05-7/11    65-71

7/12-7/18    72-78

7/19-7/25    79-85

(d)授業への出席と代替レポートを途中で切り替えることは認めません。